

第11回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人 大阪府建築士会



審査委員長 乾 久美子

1969年 大阪府生まれ
1992年 東京藝術大学美術学部建築科卒業
1996年 イェール大学大学院建築学部修了
1996～2000年 青木淳建築設計事務所勤務
2000年 乾久美子建築設計事務所設立
2000～2001年 東京藝術大学美術学部建築科常勤助手
2011～2016年 東京藝術大学美術学部建築科准教授
2016年～ 横浜国立大学大学院Y-GSA教授



建築人賞記念盾「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作

審査総評

建築人賞審査委員長 乾 久美子

この度は、第一一回を迎えました大阪府建築士会主催の建築人賞の審査委員長にご指名を頂きましてありがとうございます。数時間掛けてアドバイザーの島田陽^(※1)、香川貴範^(※2)両氏からアドバイス頂きながら審査をし、建築人賞二作品と奨励賞二作品、佳作四作品を選定いたしました。

この建築人賞ですが、会報誌『建築人』のギャラリー欄に掲載された作品の中から選定します。まずは誌面にて一次審査を行い、一般・住宅部門を合わせて一〇作品を選定しました。その一次審査通過作品には、設計者に追加詳細資料を提出して頂き、その資料を読み込むことにより、毎月の建築人のページからでは汲み取れない情報も含めて判断しました。審査方法については、前任の審査委員長であられた古谷誠章先生の際には、公開プレゼンテーションや現地審査も行っていたようですが、今回は誌面と補足の追加詳細資料を基に審査をしたところ、やはり資料等だけの審査の限界も感じました。魅力的で気になる作品も数多くあり、いつか現地を訪れて見てみたいと思いました。

先ずは一般部門ですが、大手ゼネコン設計部や組織設計事務所作品が多く、密度感がありました。技術力だけでなく作品性も高いものが集まっている、大変見ごたえのある作品が多かったと思います。続く住宅部門は、普段東京で設計している私の感覚からすると、少し違う

文脈でつくられているように感じる作品が多く、関西圏ならではの地域性が感じられて、興味深く拝見しました。

この会報誌『建築人』のギャラリー欄は、全ての建築士の作品を対象に掲載されているそうです。しかしながら今回はアトリエ事務所の若い設計者の応募が少ないという印象がしました。最近の関西は、若く素晴らしい建築家が多く活躍されているエリアとして認識してきますので、そうした方もどんどん応募されるような賞になった方が、より一層この「建築人賞」が盛り上がるのではないのでしょうか。さらに応募者は、大阪の地に建つ作品だけでなく、また大阪府建築士会会員の方だけの賞でもないということなので、関西圏の様々な方が応募するような賞になれば良いと思います。賞の仕組みというものが、変えられるのかわかりませんが、検討されると良いのではないかと思います。また、審査の際に気が付きましたが、現在のギャラリー欄には写真と設計趣旨のみで、図面の掲載がありません。建築作品を味わう情報としてはやや物足りないところであり、やはりプラン的な情報も誌面に載せたほうが良いと感じました。

関西圏の作品をつぶさに見る機会は今なかなか無く、アドバイザーの先生方とこのような賞を審査させて頂くというのは、大変勉強になり非常に面白い時間となりました。今回は色々な発見があり、とても楽しく審査させて頂きありがとうございました。

※1 タトーキテックス／島田陽建築設計事務所代表
※2 SPACEARCHIVE 一級建築士事務所代表

●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、二〇一九年四月には第六五八号を数えました。本会の会員にとって重要な情報提供を行うとともに、建築作品発表の機会を設け、建築技術の普及や会員の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は「建築人」のGALLERY頁に掲載された全作品の中から特に機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰することで、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とし、「建築人」のプレゼンスをより高めていくことを意図して創設された賞です。

●審査経過

審査は公平性を重視するため、主に関西以外を拠点として活躍する建築関係者、学識経験者をお願いしています。この第一回からは横浜国立大学大学院教授の乾久美子氏を審査委員長としてお迎えしました。

今回の審査は二〇一八年に掲載された作品三十三点が対象となりました。一次審査は誌面より一般・住宅部門を合わせて計一一作品を選出、その後、設計者から追加で提出された詳細資料をもとに、三月一八日に本会会議室で二次審査を行い、最終的に建築人賞二点、奨励賞二点、佳作二点が選出されました。

入選作品は、いずれもその機能性、デザイン性、社会性などが高く評価されたものですが、これらを表彰し公表することによって、社会に対して建築の魅力や価値を発信し、建築文化の醸成に寄与できるものと考えています。また今後より多くの方に参加頂き、建築人賞が大阪から魅力ある建築情報を発信する動機として成長発展していくよう折念しています。

建築情報部門長 飯田英二



【選評】
国道沿いの交差点に位置するカーディーラーのショールームで、単に車を見せるだけでなく、アウトドアメーカーとタイアップをしながら新しいライフスタイルの提案と共に、車と人の関係性をかえていこうという意図をうまく建築の形に結び付けています。大きな面をぐるりと丸めて、建築全体を一枚の曲面として大胆に表現しています。それを裏付ける防水などの技術もしっかりとされていて、とても良く出来た建築だと思いました。世代的にはプログラム建築に影響を受けたであろう設計者が、ストレートに楽しみながらつくった感じがして、その伸びやかな表現に感心しました。また、サインや照明など細部に至るまでコントロールされていて、建築として総合的に優れた作品でした。



建築人 12

建築人2018年12月号掲載

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／大阪府茨木市
竣工年月／2018年8月

用途／展示場
構造・規模／S造1階
敷地面積／5,905.49㎡
建築面積／2,143.11㎡
延床面積／1,978.70㎡

写真／Nacasa&Partners Inc.
NAKAMICHI ATSUSHI



【選評】
親の敷地内に子世代の住宅を建てる計画ですが、大きな敷地の中に傾斜があり、低層分棟形式の建築をそっと置いているのが好ましく感じました。道路側からのアプローチには、可憐に咲いたツツジがのり面に植樹されていますが、この愛らしい庭の風景に、新しい増築棟がともよく馴染んで見えました。このような豊かさを伴う建築は、既存の恵まれた環境がないとつくれないので、うらやましいプロジェクトだと思いました。そうした中で奇をてらわず、妥当で倫理性の高い感覚を持ってつくられているのではないかと感じました。作品名にもなっているクロススルーフの効果も面白く、単調になりがちな住宅街の風景に対し、リズムをそえているように思いましたが、プレゼンの中に隣との関係に配慮した様子が表現されていて、良いと感じました。



建築人 6

建築人2018年6月号掲載

設計／井上久実設計室
施工／西友建設

建築位置／大阪府枚方市
竣工年月／2018年4月

用途／専用住宅
構造・規模／木造平屋建
敷地面積／355.45㎡
建築面積／117.59㎡
延床面積／116.76㎡

写真／雷田英次

建築人賞奨励賞 竹中研修所「匠」増築



【選評】
既存の研修施設に隣接する形でCLTパネルを用いて増築されたプロジェクトで、構造と意匠を意欲的にマッチングさせた作品です。CLTの標準架構によるポツ窓をさげ、鋼板補強により垂れ壁・腰壁のない開口部の実現や、床板のコーナー二方向はね出しの実現など、従来の制約を高い技術力でクリアし、意匠としても良く練られた力作です。床下を利用した空調や、二重壁による木造の遮音問題の解決などにも工夫が随所にみられ大変よく出来た建築だと思えます。設計・施工を併せもつ大手ゼネコンらしい技術トライアルで、これからのCLT建築の可能性の広がりを感じさせる作品だと思います。

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店
建築位置／兵庫県川西市
竣工年月／2018年2月
用途／研修所
構造・規模／木造（一部RC・S）
地上3階地下1階
敷地面積／79,889.76㎡
建築面積／328.90㎡
延床面積／1,209.20㎡
写真／伊藤 彰 /aifoto.jp

建築人賞奨励賞 Alegria Residence Utsubo Park



【選評】
狭小な敷地の中での一〇階建てということで、ほとんど塔のようなプロポーションです。プランと構造を工夫をしないと、普通には建たないと思いました。天空率を使いながら高層化し、ファサードを途中でずらすだけという単純な操作で、単調さから逃れられているように見えました。また、EV・階段コアを納め二方向避難をとるなど大変難しい平面計画だったと思いますが、さらっと解いているようなところが、また住戸内部では入って直ぐにちよつとした壁があつてキッチンを隠せる配慮があつたりと、使いやすそうな住宅になっていて細部まで良くできていると感心しました。また賃貸という条件下で、靴公園を見渡せる好立地を活かしている良い作品と思いました。

建築主／デジタルアトン
設計／樫永一男建築研究所
施工／貫山建設
建築位置／大阪市西区
竣工年月／2018年1月
用途／店舗付き共同住宅
構造・規模／鉄筋コンクリート造
地上10階建
敷地面積／91.77㎡
建築面積／69.02㎡
延床面積／673.47㎡
写真／松村芳治

実施要項及び経過

●対象作品

会報誌建築人二〇一八年一月号～二〇一八年二月号
「GALLERY」掲載作品三三三三

●審査

第一次審査（三三点から一点選出）
第二次審査（アドバイザー二名参加）

島田 陽 タトアーキテクトゥ／
島田陽建築設計事務所代表
香川貴範 SPACESPACE
一級建築士事務所代表

●表彰式

令和元年度定時総会・式典 席上
日時／令和元年五月二二日（水）
会場／KKRホテル大阪三階

●入賞作品

建築人賞

トヨタカローラ新大阪名神茨木店
二〇一八年二月号掲載

CROSS ROOFの家 二〇一八年 六月号掲載

建築人賞奨励賞

竹中研修所「匠」増築 二〇一八年 六月号掲載

Alegria Residence Utsubo Park
二〇一八年 三月号掲載

建築人賞佳作

菅原天満幼稚園 二〇一八年一〇月号掲載

日本圧着端子製造名古屋技術センター

別館—Petali— 二〇一八年二月号掲載

岸和田の家 二〇一八年 九月号掲載

a twigs house 二〇一八年 三月号掲載

建築人賞 設計者に賞状および記念盾を授与、
建築主・施工者に賞状を贈呈

建築人賞奨励賞 建築主・設計者・施工者に賞状を贈呈

建築人賞佳作 建築主・設計者・施工者に賞状を贈呈

建築人賞佳作 菅原天満幼稚園



【選評】
既存施設を増改築する形で計画された幼稚園ですが、狭小な敷地を有効活用するためにつくられたピロティが特徴の、とてもチャーム的な作品です。ピロティはすこし暗そうで、トイレの位置等、色々と謎めいた部分はあるのですが、ピロティ壁のゆがんだ円形の穴を通して、構造体を遊具のようにあつかうという挑戦が感じられ、魅力的でした。立面のシムメトリックなあり方も地域の建築として非常に面白い存在になることに寄与しているのではないかと感心させられました。近くに行ったら是非見に行ってみたい気がします。

設計 / アバクス・アーキテツ
施工 / 真正工業
建築位置 / 大阪市東淀川区
竣工年月 / 2018年2月
用途 / 幼稚園
構造・規模 / 混構造 地上2階
(1階 RC造、2階 鉄骨造)
敷地面積 / 1,326.54㎡
建築面積 / 274.49㎡
延床面積 / 465.43㎡
写真 / 笹倉洋平

建築人賞佳作 日本圧着端子製造名古屋技術センター別館 | Petal |



【選評】
とても工芸的で、新しく焼いたと思われる外装タイルによる外観と、精緻なインテリアをもつ美しい建築です。非常に高い技術力で設計され、ひとつの建築に対しておそらく大変な時間と労力をかけておられるように思いました。工場建築をここまで工芸的につくるという発想そのものが目新しく、さすが関西ならではのものを感じます。一般的に工場に即物的な表現になりがちですが、この作品におけるプログラムと装飾的な内装のマッチングは、近未来を予感させるほどの「もの」をつくる空間が、今後どうなっていくのかという主題に対して、色々な意味で考えさせられる建築です。

設計 / Atelier KISHISHITA
施工 / 波多野工務店
建築位置 / 愛知県みよし市
竣工年月 / 2018年4月
用途 / 研究所
構造・規模 / 壁式 RC 造 1 階
敷地面積 / 18,236.98㎡
建築面積 / 546.60㎡
延床面積 / 613.08㎡
写真 / 絹巻 豊

建築人賞佳作 岸和田の家



【選評】
築三〇年という、比較的新しい木造住宅のリノベーションです。外観は改修していないという点で、内装的な作品ではあるものの、がらりと雰囲気を変え、すこく快適そうな住宅にリノベーションされています。特に既存の庭が、生き活きたものに生まれ変わったように、施工主も喜ばれたのではないかと想像していました。リノベーションは、苦勞の多い仕事だと思いますが、それを引き受けて誠実に機能的かつモダンにつくり替えることに成功しているようです。最近では「リノベーションらしい」を追求する作品が多いですが、そのような行為の対象化が必要でなくともよいのではないかとこのことを考えさせられました。

設計監理 / 大西憲司設計工房
施工 / 匠家具工芸
構造監理 / 天野一級建築構造設計事務所
建築位置 / 大阪府岸和田市
竣工年月 / 2018年6月
用途 / 専用住宅
構造・規模 / 木造 (在来工法)
地上2階
敷地面積 / 380.00㎡
建築面積 / 155.00㎡
延床面積 / 172.19㎡
写真 / 福澤昭嘉

建築人賞佳作 a twigs house



【選評】
一般住宅でありながら山荘のような環境をもつ住宅が存在するのは阪神間ならではで、他の地域ではあまり見られないタイプの住宅です。プランは単純な一文字できれいに納めるよう計画されており、眼の前の崖に対しての開かれ方もとても気持ち良く、快適な住宅だろうと思えました。ただ一方で、サブパントスペースの豊かさや比べ、リフトがあっても良いのではないかと感じました。また、芦屋のような環境の中で豪華に向かうのではなく、慎み深い外観をもっていますが、かつての開拓者であろう第一世代の「品」のようなものを取り戻そうとしているように思えました。

設計 / マニエラ
建築設計事務所
施工 / 建築工房小林
建築位置 / 兵庫県芦屋市
竣工年月 / 2017年11月
用途 / 専用住宅
構造設計 / うきょう建築構造事務所
構造・規模 / 木造平屋建
敷地面積 / 978.25㎡
建築面積 / 148.14㎡
延床面積 / 133.32㎡
写真 / 下村写真事務所